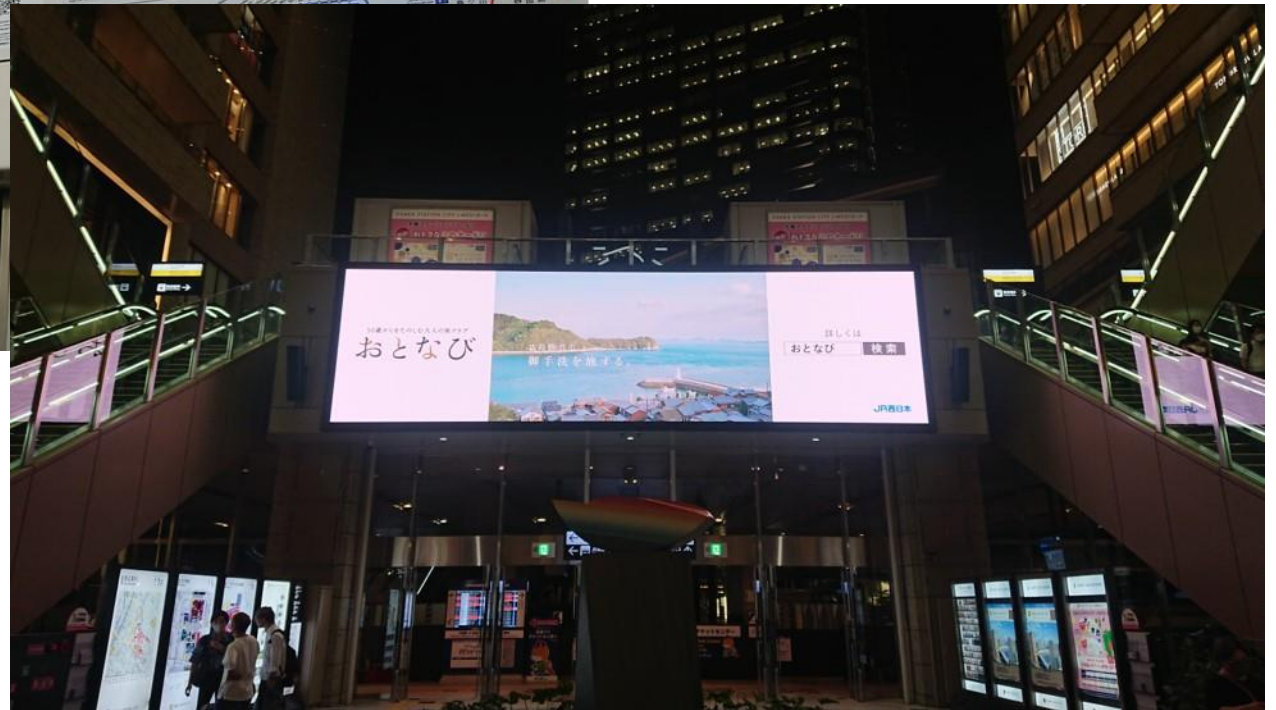


# 西日本エリアのサイネージを活用した新たな取り組みについて (視認者推計のトライアル、WESTビジョン改造搭載等)



2021年3月9日

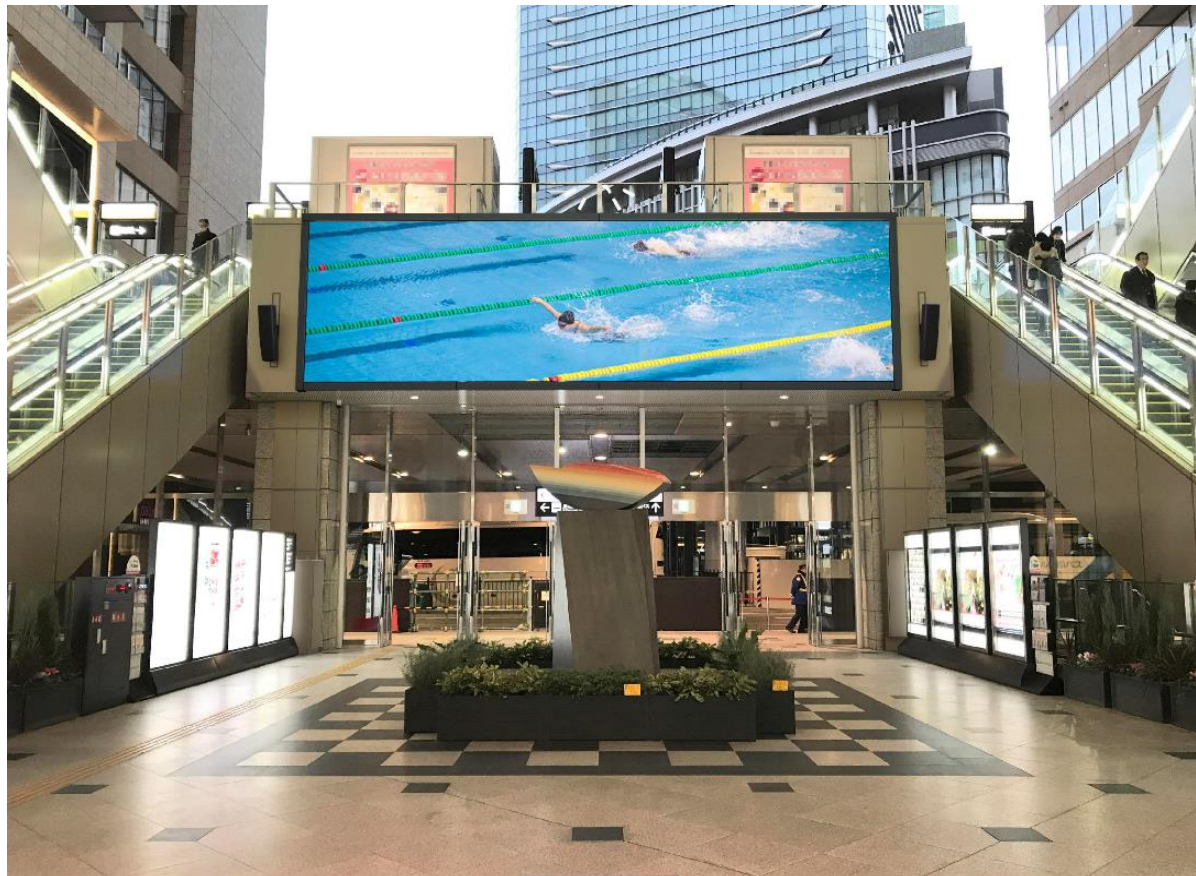
(株) J R 西日本コミュニケーションズ

土屋 樹一



## ■ 大阪駅【セントラルサウンドビジョン】

- ①縦3×横11メートルで、大阪駅構内のデジタルサイネージとしては最も大きく、高精細な3.91mmピッチのLEDビジョンを採用し、高品質な広告放映を実現
- ②従来型にはない「音声機能」及び「IPカメラやWi-Fiアクセスポイントのデータを活用した広告視認可能者数や性年代別構成の計測機能」を有しており、ビジュアルと音声を組み合わせた効果的な広告配信が可能になるほか、通行者特性の予測データに基づいた広告の出稿や、広告の効果分析が可能



# 最近の当社の展開事例

## 大阪駅セントラルサウンドビジョン: WiFiアクセスポイントデータによる視認者推計値(代理店提供資料)

【参考】Jコミ流動調査データ(大阪駅中央北口)

2019.12.4	水	215,901
2019.12.8	日	304,998
2020.9.24	木	136,765

月間集計 (のべ通行者数)

単位: 人

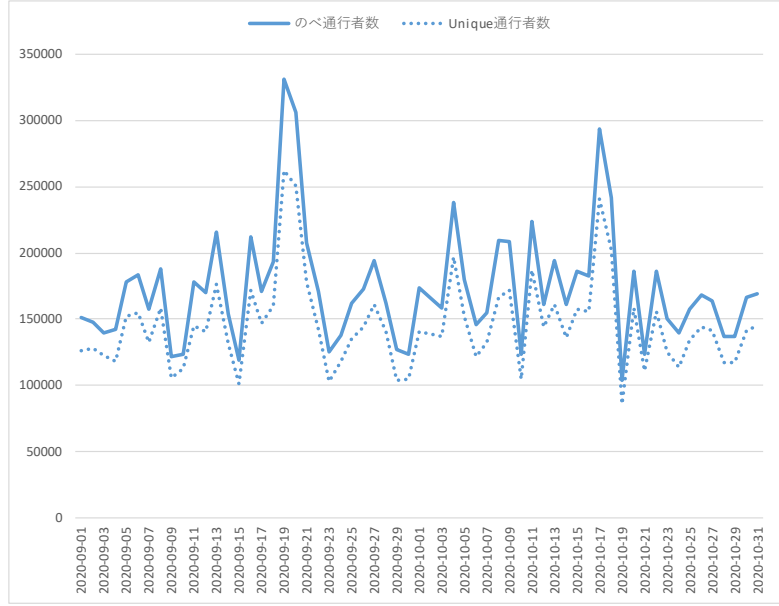
	月間計	1日平均	平日平均	休日平均	ユニーク通行者数	平均接触回数
2020.9	5,166,218	172,207	151,854	212,915		
2020.10	5,523,837	173,854	165,683	193,827		
対流動調査データ比(2019年12月実施)			76.7%	63.6%		

週間集計 (のべ通行者数)

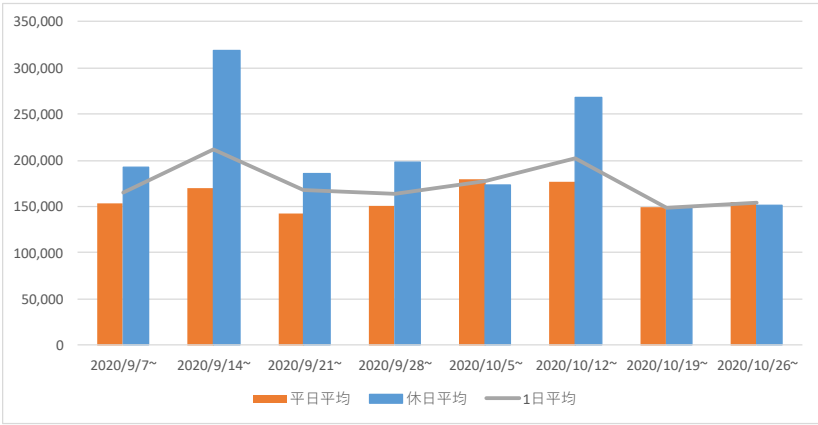
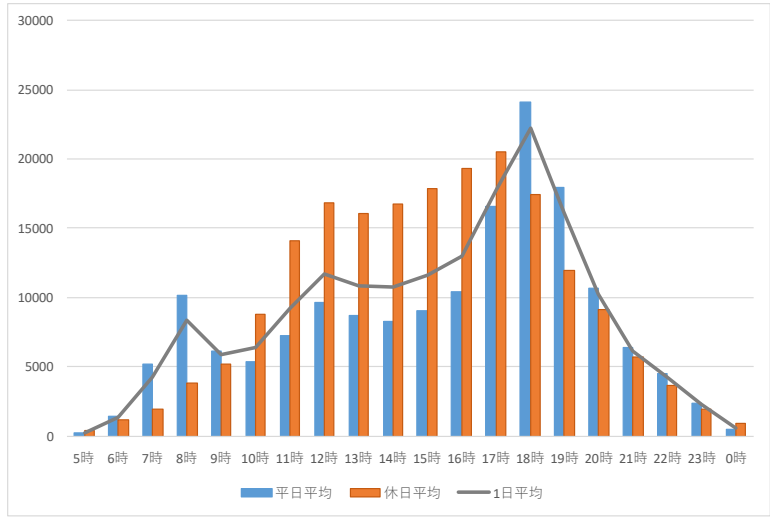
単位: 人

	週間計	1日平均	平日平均	休日平均	ユニーク通行者数	平均接触回数
2020/9/7~	1,153,766	164,824	153,687	192,665	867,942	1.3
2020/9/14~	1,486,373	212,339	169,928	318,368	1,090,455	1.4
2020/9/21~	1,171,190	167,313	141,948	186,336	901,423	1.3
2020/9/28~	1,147,593	163,942	150,226	198,233	851,963	1.3
2020/10/5~	1,246,201	178,029	179,863	173,444	916,230	1.4
2020/10/12~	1,420,407	202,915	177,034	267,618	1,065,706	1.3
2020/10/19~	1,045,507	149,358	149,749	148,381	806,370	1.3
2020/10/26~	1,076,221	153,746	154,554	151,725	827,869	1.3

日別集計



時間帯別集計 (のべ通行者数)



## 他の大型ビジョンと比べてみた。 < 一見、同じジャンルだけど、それぞれの得意技がきりり >

関西エリアで交通広告としてデジタルサイネージが登場し始めたのが2015年頃。瞬間に各電鉄が導入を始め、当社商品「JR6社共同ネットワークセット」は全国59エリア、全624面の巨大ネットワークに成長しています。近年では、大阪メトロが民営化に合わせ、導入面数を伸ばしていることもありまだまだ増え続けています。今回、大阪・梅田エリアに位置する大型ビジョンを比較し特性をまとめてみると、それぞれのビジョンには特徴がありました。

**JR西日本** 大阪駅セントラルサウンドビジョン



音声あり

### 近隣商業施設への玄関口 大阪駅最大のビジョン

ルクア、ルクアイーレ、大丸、グランフロント、ヨドバシカメラなど商業施設に隣接。高速バス乗り場もあり、全国のバス利用者の玄関口にもなっている。また、両サイドのエスカレータ利用時は、立ち止まって視認するため、接触効果が高い。

**大阪メトロ** Umeda Metro Vision



音声なし

### ギネス認定!世界最大横40m×縦4mのド迫力

新大阪・千里中央方面ホーム南側に位置し、南改札、中改札利用の際には特に強制視認性が高い。空間全体のジャック感演出が得意である。電車待ちユーザーの多い滞留型ではあるものの、電車降車時のほうが視認しやすい。

**阪急** ツインビジョン



音声あり

### 定番の待ち合わせスポットBIGMAN前 ビジョン

阪急から大阪メトロへの乗り換えルートに位置していることに加え、掲出位置が動線と正対しているため、視認時間が長い。待ち合わせスポットにも隣接しており、エリア利用者は最も多い。

媒体料金	4,000,000円(1社買切)・500,000円(ロール放映) / 7日	5,000,000円(1社買切)・600,000円(ロール放映) / 7日	4,800,000円(1社買切)・300,000円(ロール放映) / 7日
表示画面サイズ	横11m × 縦3m	横40m × 縦4m	横7.3m × 縦2.1m
放映回数/日	360回(3分ロール)※ロール放映の場合	380回(3分ロール)※ロール放映の場合	180回(6分ロール)※ロール放映の場合
エリア利用者数/日	約28万人	約24.2万人	約37.6万人
エリア特性	滞留/流動型	滞留型	流動型

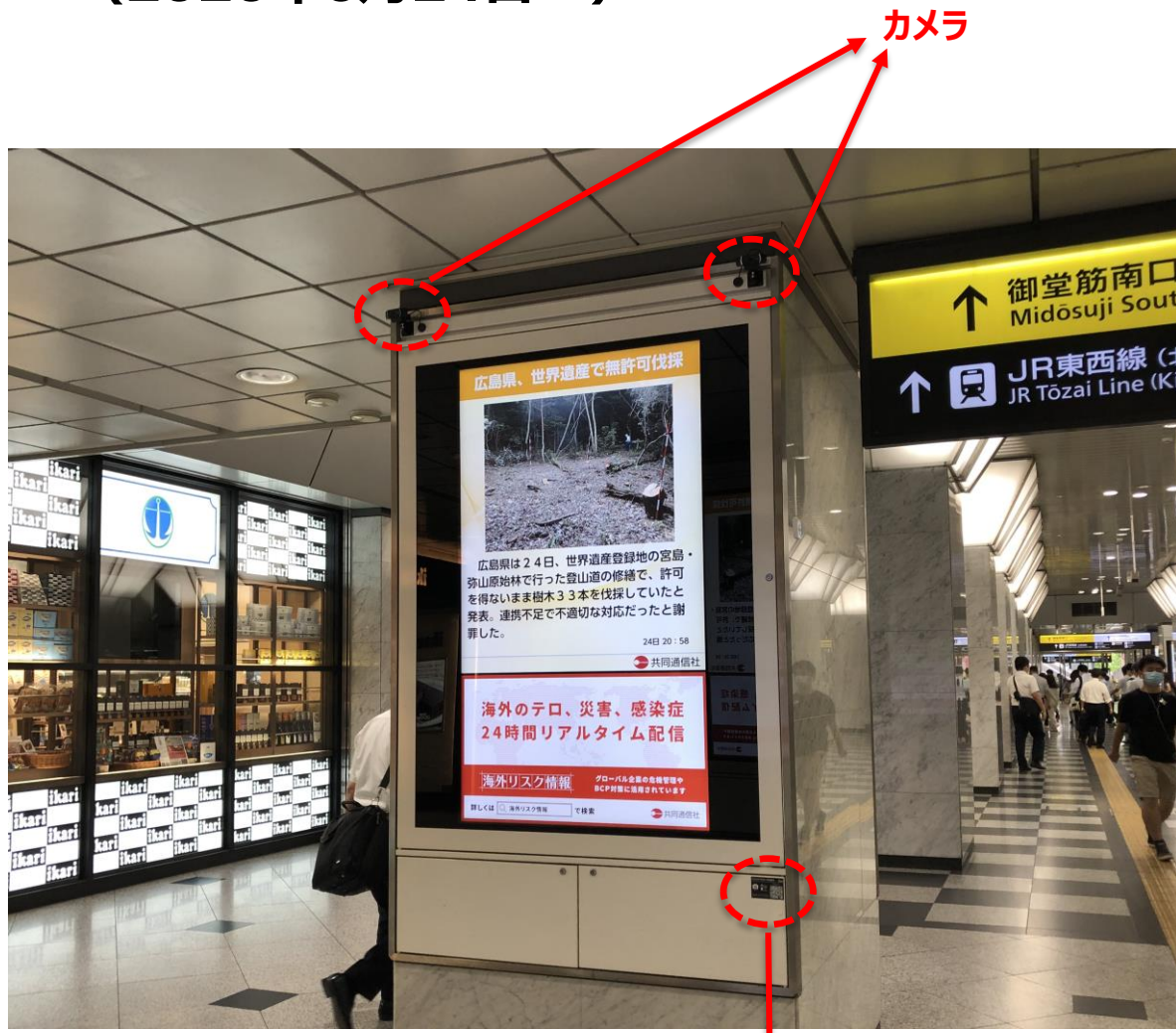
バランスのとれたオールラウンダー！  
近隣商業施設での購買行動も後押し。

とにかくインパクト絶大！  
希少なホームで迫力ある展開が可能。

エリア利用者数No.1！  
周辺環境の特性上、長時間の接触可能。

# 最近の当社の展開事例

## ■ デジタルOOH広告配信に向けたインプレッション計測の実証実験を開始 (2020年6月24日～)



カメラ

情報取得告知シール

2020.06.10

JR西日本コミュニケーションズの大阪駅のデジタルサイネージ計72面で、LIVE BOARD NetworkでのデジタルOOH広告配信に向けたインプレッション計測の実証実験を開始

株式会社JR西日本コミュニケーションズ  
株式会社 LIVE BOARD

株式会社JR西日本コミュニケーションズ(以下、JR西日本コミュニケーションズ)と株式会社LIVE BOARD(以下、LIVE BOARD)は、大阪駅の2箇所のデジタルサイネージ(大阪駅NGB1階東西通路デジタルサイネージ30面セット、J-ADビジョンWEST大阪駅御堂筋口セット)の計72面で、将来的に「LIVE BOARD Network」に接続し、デジタルOOH(デジタル屋外広告、以下、DOOH)を広告配信することを目指し、インプレッション計測の実証実験を2020年6月24日から開始します。



▲大阪駅NGB1階東西通路デジタルサイネージ30面セット

JR西日本コミュニケーションズでは、主要ターミナル駅において、駅利用者への効果的な広告訴求が可能な広告メディアであるデジタルサイネージのネットワーク展開を積極的に進めています。  
今回の実証実験は、大阪駅の2箇所のデジタルサイネージをLIVE BOARDが提供しているLIVE BOARD Networkに接続し、インプレッションベースでDOOH広告配信を行うことを目指した実証実験になります。LIVE BOARD Networkは、DOOH広告のアドネットワーク(※1)化により、手間なく小グループで複数の面への掲載を実現しており、掲載期間や配信時間帯も柔軟に対応できることが特長です。インプレッションの計測にあたっては、デジタルサイネージに設置されたカメラでローカルセンシング(※2)データを収集し、エッジAIボックスのEDGE MATRIX ※ Edge AI Box Indoorを使用して高速かつセキュアなエッジAI解析を実施することでDOOH広告の視認数の計測が可能となります。

DOOHアドネットワークでの広告配信が実現した場合は、大阪駅NGB1階東西通路デジタルサイネージ30面セット、J-ADビジョンWEST大阪駅御堂筋口セットのような駅に設置されたデジタルサイネージを運動させた広告クリエイティブのプログラマティックな展開が可能となり、これはLIVE BOARD Networkとして初の取り組みとなります。また、JR西日本コミュニケーションズとしても、広告媒体の視認者数をカメラ画像のセンシングにより計測し、さらに、デジタルサイネージを全国の屋外DOOHネットワークと連動する初の取り組みとなります。

※1アドネットワーク 複数の広告媒体を集めて広告配信ネットワークを作り、それらの媒体に広告をまとめて配信する仕組み。  
※2ローカルセンシング 特定エリアでの感知機器を使った情報取得。

## ■ 大阪環状線・ゆめ咲線323系WESTビジョンの設置拡大



- J R 西日本車両で初めてドア上と車両貫通路上にデジタルサイネージを設置（1両当たり合計8ヶ所）
- 2018年6月8日に全176両（8両×22編成）の導入が完了  
→大阪環状線のWESTビジョン搭載率は52%にまで拡大  
（大阪環状線を運用する796両中、414両がWESTビジョン搭載車両）

J R ゆめ咲線（西九条～桜島間）は搭載率100%を達成

## ■ 225系増備および223系へのWESTビジョンの改造搭載が決定

### JR西日本グループ 中期経営計画2022

#### 鉄道事業戦略「②近畿エリア」

安心、信頼される輸送サービスと沿線開発等を通じて、線区価値を向上します。



近畿エリアの主要線区であるJR京都・神戸線のさらなる線区価値向上

### 安全性、安定性、利便性に優れた「225系」の新製投入

○投入車両数  
144両

○新製投入する「225系」のおもな特徴

#### 【安全性・安定性】

- ・車体の衝突安全対策、車両挙動監視装置
- ・機器の二重系化（ATS、パンタグラフなど）

#### 【利便性】

- ・車内ディスプレイによる多言語案内
- ・各車両への車椅子スペースの設置

○投入開始時期  
2020年度より順次



新製投入する「225系」



車椅子スペース



車内ディスプレイ表示例

# 最近の当社の展開事例

## 「223系」への車内ディスプレイの設置

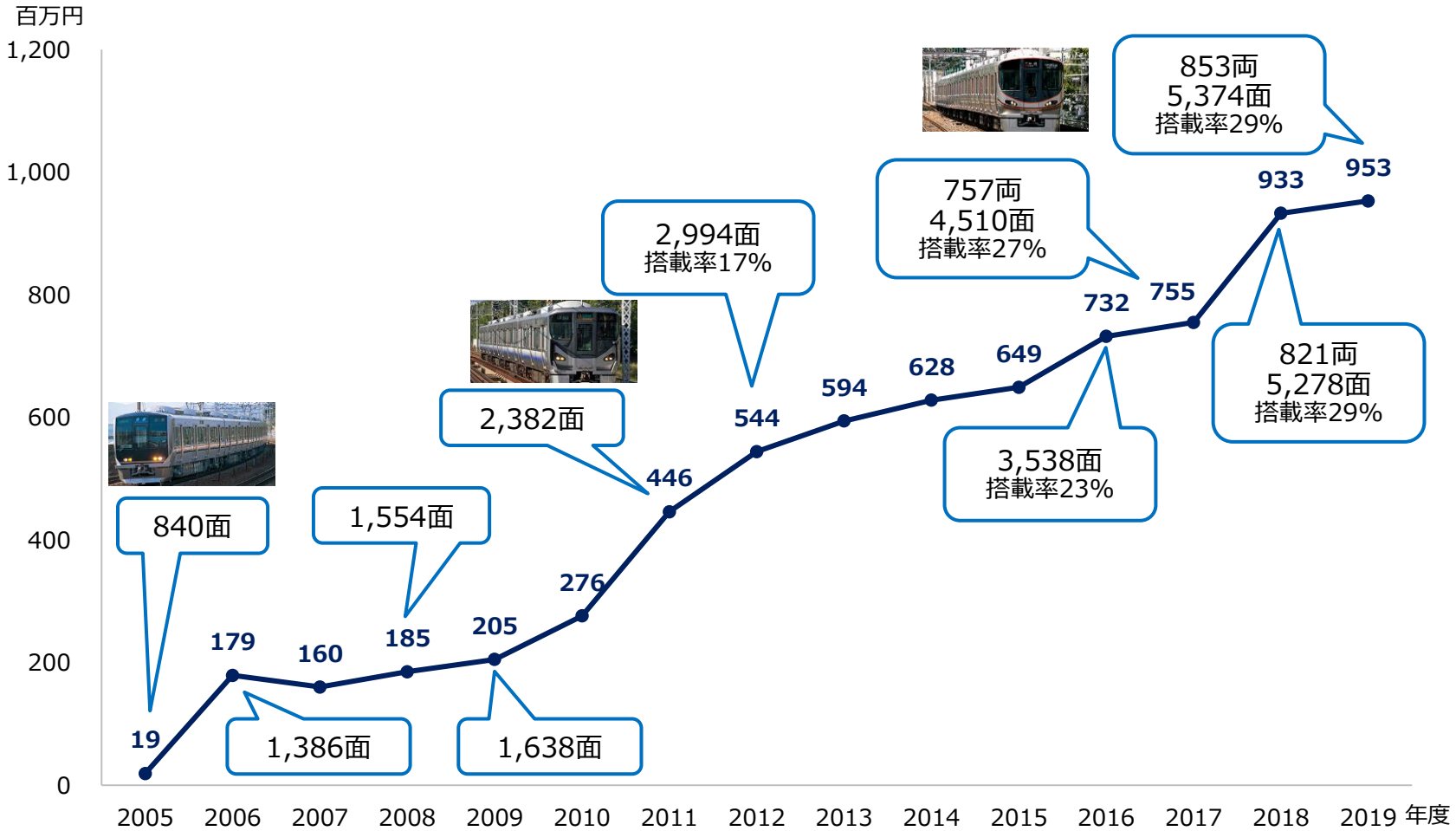
- 対象車両数：330両
- 開始時期：2020年3月中旬以降順次
- 投資額：17億円

	【現状】LED表示器	【整備後】液晶ディスプレイ	
設備		<p>運行案内用</p>	<p>広告・異常時案内用</p>
設置位置	<p>LED表示器</p>	<p>イメージ図</p>	<p> <span style="border: 1px solid blue; padding: 2px;"> </span> : 運行案内用  <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;"> </span> : 広告・異常時案内用         </p>
放映内容	行先、号車、 停車駅、列車種別、 駅ナンバリング、マナー案内	行先、号車、 停車駅、列車種別、乗換案内、 駅ナンバリング、マナー案内	広告配信 輸送障害時の運行情報
言語数	2カ国語	4カ国語（日本語・英語・中国語・韓国語）	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一目で見える情報が少ない</li> <li>・異常時情報が提供不可</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フルカラーで視認性が良い（情報量、見やすさ等）</li> <li>・タイムリーに輸送障害時の情報提供が可能</li> </ul>	



# 最近の当社の展開事例

## ■ WESTビジョンの設置面数推移



2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
1,151両 6,448面 40%	1,211両 6,628面 42%	1,259両 6,772面 43%	1,259両 6,772面 43%

## ■ 223系改造搭載WESTビジョン



## 【参考】京阪電気鉄道でも改造型車内ビジョンの搭載を開始

2021(令和3)年1月18日

報道関係者各位  
PRESS RELEASE

京阪電気鉄道株式会社  
株式会社京阪エージェンシー  
株式会社交通電業社  
モバイルクリエイト株式会社

### 京阪電車車内に広告用デジタルサイネージを搭載します

- 1車両につき3カ所、18.5インチのLCDモジュール(FULL HD対応)を設置
- 特定のエリアに限定した広告コンテンツの放映が可能

京阪電気鉄道株式会社(本社:大阪市中央区、社長:中野道夫)では、京阪線で運用している6000系および13000系車両において、京阪電車として初となる車内広告用デジタルサイネージ(以下DS)を2021(令和3)年1月22日(金)より順次搭載します。

今回搭載するDSには、株式会社交通電業社(本社:大阪市平野区、社長:相置岳生)が開発した鉄道車専用ディスプレイと、モバイルクリエイト株式会社(本社:大分市、社長:村井雄司)の「移動体管理システム」のノウハウを活用したコンテンツ配信システムを採用。運用業務は、京阪電車の駅および車内広告の運営を受託している株式会社京阪エージェンシー(本社:大阪市中央区、社長:中妻裕司)が担当します。

1車両につき、乗降用扉6カ所のうち3カ所の上部に18.5インチのLCDモジュール(FULL HD対応)を搭載。案内表示装置がもつ車両の位置情報等を活用することで、大阪・京都など特定のエリアに限定して広告コンテンツを放映することが可能です。

当面は京阪グループ各社の広告を中心とした放映を行い、本DS搭載列車の増備が進んだ2022(令和4)年春頃を目途に京阪グループ外事業者様の広告放映を開始する予定です。

本DSの導入で、京阪電車内の広告をより分かりやすくするとともに、車両広告を沿線内外問わずより多くの事業者様にとってさらにご利用いただきやすいものになりたいと考えております。

詳細は別紙の通りです。



▲車内に設置した広告用デジタルサイネージ



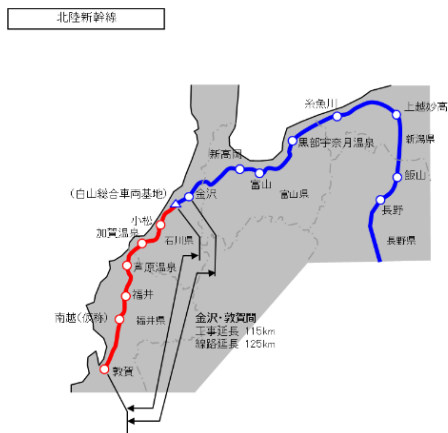
# 今後予定されている大型プロジェクト

## ■ 北陸新幹線敦賀延伸（2024年春？）

北陸新幹線は、長野市・富山市・小浜市付近を經由して東京と大阪を結ぶ路線です。現在は金沢・敦賀間の整備を行っています。

金沢・敦賀間の線路延長は約125kmであり、平成24年6月に工事実施計画の認可を受け、長野・金沢間の開業から概ね10年強後の完成を予定して工事に着手しました。

令和6年（2024年）春頃の完成予定に向けて、工事を進めています。



## ■ 広島新駅ビル開業（2025年春）

